

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第1回 和泉市医療と介護の連携推進審議会
開催日時	令和7年8月6日(水)13時30分～15時00分
開催場所	市役所 本館 3A 会議室
出席者 (敬称略)	【委員】 永田委員、高橋委員、上嶋委員、北野委員、池田委員、西川委員、吉田委員、 治村委員、川井委員、迫田委員 【欠席】 松下委員、大原委員 【事務局】 福祉部:西川部長 高齢介護室:奥野室長・田山課長・藤原総括主幹・川上総括主査・門林主事 和泉市在宅医療介護相談支援センター:上村・和田
会議の議題	和泉市健康増進計画・食育推進計画策定に関する事
会議の要旨	1.委嘱状の交付 2.市長挨拶 3.議事 (1)会長、副会長の選任について (2)令和6年度第1回和泉市医療と介護の連携推進審議会振り返り (3)令和6年度の活動報告と令和7年度の活動計画案について (4)その他 在宅医療に必要な連携を担う拠点について
会議録の 作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の 確認方法	☒ 会議の議長の確認を得ている ☐ 出席した構成員全員の確認を得ている ☐ その他()
その他の必要 事項(会議の 公開・非公開、 傍聴人数等)	公開 傍聴人 1名

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

○議委囑状交付式

○市長挨拶

あいさつの後、他の公務により市長退席。

○事務局より出席委員の紹介

○議事(1)会長・副会長の選任(互選)

委員より、これまでの経験と流れを汲み、医療分野と介護分野からそれぞれ1名として、和泉市医師会の永田委員を会長に、大阪介護支援専門員協会和泉支部の高橋委員を副会長として推薦。委員からの異議なし。

○議事(2)令和6年度 第1回和泉市医療と介護の連携推進審議会の振り返りについて(資料1)

事務局より説明。委員からの質疑なし。

○議事(3)令和6年度の活動報告と令和7年度の活動計画案について(資料2～5)

事務局より、令和6年3月策定「第9期和泉市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画」における、医療と介護の連携推進事業に関わる「基本目標3」に対応した進捗管理表を基に取組・課題・今年度の取り組みについて説明を行った。

【資料2-1】 主な事業「①地域の医療・介護資源の把握」

・在宅医療を支える医療機関・訪問看護事業所一覧について、医療機関や地域包括支援センターに配架し、市民からの問い合わせに対応できるよう取組んだ。

・薬剤師会の協力のもと「在宅医療の対応が可能な一覧表」も在宅医・地域包括支援センターへ配架し活用いただいた。

・課題は、「連携に必要な情報」や手段として「ICT」の活用を検討

・今年度も情報更新を継続し、必要に応じ市民への情報提供を行う。

【資料2-2】 主な事業「②在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応の検討」

・本審議会や下部組織の専門部会、課題別の部会において、現状把握と課題抽出を行い、必要な施策の企画立案を実施している。

・課題①課題別部会で抽出した課題を専門部会にあげ、施策の企画立案を行うしくみであるが、各部会で終結している傾向にあること、課題②第8期医療計画に位置付けられている「在宅医療に必要な連携を担う拠点」が目指す多職種協働による在宅医療の提供体制の構築との相互連携である。

・今年度は、医療と介護の連携した対応が求められる4つの場面に応じた課題等の整理を行うことで、より本質的な議論に立ち戻る転換期にする。

【資料2-3】 主な事業「③切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進」

・入退院連携や急変時、看取りなどの時期を捉えた体制構築に取り組んでいる。

・課題①看取り代診システム参加医療機関が増えないこと、課題②介護事業所間連携について、SNSを活用した情報発信を試みるも登録者が増えず現状把握が難しいことがあげられる。

・今年度は、介護事業所間連携について、実務に役立つテーマの研修会を企画し、SNSを通じて案内を

発信することで認知拡大を図っていく。

【資料2-4】 主な事業「④医療・介護関係者の情報共有の支援」(資料3)

・医療・介護資源の情報共有や、必要時に市民及び関係者が選択・連絡できるような環境整備に取り組んでいる。昨年度は一人暮らし高齢者などの緊急入院時に備えた覚書の取組みに加えて、「和泉市版人生会議メモ」を作成し活用を始めている。

・人生会議メモの説明と周知啓発の協力を依頼。

【資料2-5】 主な事業「⑤在宅医療・介護連携に関する相談支援」

・医療介護連携推進コーディネーターを中心に、医療介護関係者からの相談に応じ、連絡調整や情報提供を行っている。

・相談件数は横ばいで、コーディネーターの役割(住民の困り事を解決するための医療と介護の連携体制を整える窓口)について研修会などを通じ、専門職への周知を図っていく。

・今年度より地域包括支援センター職員がコーディネーターに加わっており、在宅療養などの相談を担う地域包括センター(住民の困りごとを解決するための窓口)とより密接に連携することで、相談支援機能(役割を明確に発信)の強化を図っていく。

【資料2-6】 主な事業「⑥医療・介護関係者の研修」

・医師会、歯科医師会をはじめ専門職の皆様には研修会を開催いただいている。今年度も計画のとおり進めていく。

【資料2-7】 主な事業「⑦地域住民への普及・啓発」(資料3. 4. 5)

①地域出張型在宅セミナーや②市民フォーラム、③和泉まちの保健室を通じ、在宅医療や介護に関する知識・情報の発信、「専門家まかせの医療や介護」ではなく、「自分の人生を自ら生きるための主体性の重要性」を考えるきっかけを提供している。

①地域出張型在宅セミナーは増加しており、講座番号8・9(人生会議)のオーダーが増えている。

②市民フォーラムは、令和6年度は「わたしらしく迎えたい 人生最終ステージにおける最後 もしものとき」と題して、基調講演、パネルディスカッション、「人生会議メモ」を記入しながら専門職とディスカッションを行った。終了後アンケートでは9割以上が「人生会議をやってみようと思う」「今後活用できると思う」と反響を得ている。

③和泉まちの保健室2号店が誕生した。市立総合医療センターと大阪母子医療センターの主催で、毎月、庁舎1階の市民室前で定期開催している。幅広い年代層の相談機会となっており、相談場所の確保や周知活動などの後方支援を継続していく。

・人生会議メモは2,000部作成したが、残り300冊弱。増刷が必要となるので、内容に関して、必要に応じブラッシュアップしたい。

・令和7年度のフォーラムは、本人の意思決定を支える「大切な人」として、家族、特に働く世代を対象に、気軽に人生会議を重ね、本人の意思をくみ取り後悔なく最善の選択ができることで、自身の安心と豊かな人生にもつながる前向きなものであることを伝えたいと考えている。テーマ「大切な人と語り合う 私の人生会議 ～後悔しないためのエンディングノートではない、安心を生む和泉市版人生会議メモ活用術～」とし、令和8年3月1日(日)シティプラザでの開催をめざし、専門部会を中心に検討を進めている。働き世代の参加を促すため、同年代層の著名人を起用しようと、吉本興業の「月亭八光氏」から快諾を得ている。

【資料2-8】 主な事業「⑧在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携」

・主に、和泉保健所管内の市町による情報交換を行っている。情報共有が中心ではあるが、今年度も医

療と介護の連携推進コーディネーターとともに出席し、回を重ねていく中で、広域連携が必要な事項についての協議や連携体制の構築を図っていく。

○質疑

○委員

父と母に、実際にこの人生会議メモ使ってもらった。今後家族や大切な人を巻き込んでいくという要素があればと思う。このメモの中に、家族はどう思っているのか、家族をどう思っているか、といった項目があると、本人もそれを穴埋めしていくっていうメージで、自然な形で思いを聞きやすくなると思う。

○委員

在宅訪問看護の現場では、実際に在宅医者・ケアマネ・他機関との共有情報として使用している。本人にも質問して情報をここに落とし、担当者も共有している。担当者会議の機会を使って共有したり、定期的に更新したりしている。本人から家族へ、また家族から本人へ話してみてもどうかなあという話をしている。家族としては本人へ聞くタイミングや親がどう思っているのかをどう聞いたらいいのかという不安とかもあるようなので、今回のフォーラムの中で聞ききっかけ、話すきっかけが聞ける機会になればいいのかな。

○委員

タイミングが重要です。病気になってからじゃなくって、前からの方がいいとか。難しい問題です。

○委員

(人生会議メモ)を書いているということを、救急隊の方とかが認識できないと、書かれていることと違うことをやってしまうことがありますので、自治体によっては筒に入れて冷蔵庫に置きましょうとかと、ある程度市として(救急隊などとの情報共有について)保管(場所など)を統一していただいとくと、心肺蘇生希望されてます、されてませんかとははっきりしていると、私たち医者側としてもすぐ対応がしやすい。

○委員

救急隊がかけつけて救命処置されます。事前の情報共有として ACP の保管場所などわかっているとわかりつけ医とも連携しやすいと思う。

○委員長

今回のフォーラムのテーマは本人じゃなくて、子供世代、若者世代ということですが、興味持ってもらえる工夫などご意見いかがですか。

○委員

大学で、20 分ぐらいの映像を見せ、人生会議を考えることをやるっている。その時は考えるが続かない。今回、若い人たちに広げられていくのは非常に大事、配布をする時にどこに配布するかよね。学生だったら、学校のお友達同士じゃあ一緒に行ってみようかというふうなことになるので、企業などに頼んでもみるのも良いのではないかな。

○委員

若い世代から人生会議というのをどう思っているのかを話してもらってのも 1 つ。

○委員

介護保険制度が始まったところのお話ですが、どうしても父を自宅に連れ帰りたいという方がいた。いつもお世話されている奥さんと娘さんが、お父さんの思いをくんで自宅に帰りましようとなったとき、普段お世話されている方が主導権を持っていると思っていたが、急に見たこともない次男が現れ「こんな状態の親父が帰すのか？」と話され、自宅に帰ることなく最後は病院でお亡くなりになったケースがあった。日ごろ関わっていない家族の思いも知るきっかけになるとも思った。

また、4年前にがんになったときに、先生の話も1人で聞き、家族にはどういう治療方針をするということも大まかに話して自分で決めたが、抗がん剤の治療途中で、体調が悪くなって止めてしまった。その後、あまりしたくないなというのが少しあり、夫に相談したが、治療する一択だと言われた。その時、患者の意思というのは、自分では決められないなというのを思った。家族からは本人の思いよりも、やり切るとか、悔いが残らないみたいな圧を感じて、難しいなと感じた。

○委員

家族の中で可能ならキーパーソンを一番頼り、中心にすると良いのかなと思う。家系図のところにキーパーソンを記載するのも良いのではないかな。可能ならキーパーソンを一番頼り、中心にすると良いのかなと思う。

○委員

ACPに関して、勉強会や、当事者になった本人が、自分の生き方をきちんと伝えられるためのツールであるということを認識してもらえるように、お伝えできたらよいと思う。現場では、本人の希望と家族の希望があり、本人の希望を減らすというのは、果たして本人のための生き方としてどうか？齟齬が出てくるかと思う。本人の意見をちゃんと伝えるということは、弱い立場になってしまってからでは言いにくいこともあったり、正しく伝えられない状態になることもあるので、事前に家族と話をする機会を持つことで、本人はこういう思いで暮らしたいと思っているのだなということを、事前に意見交換しておくことが良いと思う。どちらか一方を立てるための意思決定をするのではなくて、情報交換をするためのツールとして人生会議メモを活用できたらと思う。フォーラムでは、そのようなことを伝えるセッションになればよいと思う。

○委員長

資料3の和泉市版人生会議メモ、資料5のフォーラム企画書についてたくさんのご意見がでた。

審議会としては、若い人に意見を述べてもらうコーナーをつくとよいということになった。

人生会議メモを分かりやすい場所に置くなども含め、事務局で整理し、市民にとってACPについて考えるきっかけとなるフォーラムを開催していただきたい。

議事3「令和6年度の活動報告と令和7年度の活動計画案について」の審議を行った。異議はないか。

○委員 異議なし

○議事(4)その他「在宅医療に必要な連携を担う拠点について」(資料6)

事務局より説明。

国・府の動向として、第8次医療計画に向けた「在宅医療の体制構築に係る指針」において、在宅医療に必要な連携を担う拠点を医療計画に位置づける際には、「市町村が在宅利用・介護連携推進事業において実施する取り組みとの連携を図ることが重要である」と記載されている。また、介護保険法に基づいて市町村が実施している「在宅医療・介護連携推進事業」の取り組みと連携が重要とされている。

本市では「在宅医療に必要な連携を担う拠点」を和泉市医師会が担い、「在宅医療・介護連携推進事業」は高齢介護室および一部委託として「在宅医療介護連携コーディネーター」が担う。

「在宅医療に必要な連携を担う拠点」と「在宅医療・介護連携推進事業」の連携については、

①医療計画に定められた「在宅医療に必要な連携を担う拠点」では、多色協働による包括的・継続的な在宅医療提供体制の構築を図るため、状況把握、連携上の課題抽出及び対応策の検討などの実施。

②介護保険法における「在宅医療・介護連携推進事業」では、地域の実情に応じ、切れ目ない在宅医療と介護の提供体制の構築に取り組むとされている。

③いずれにおいても「日常の療養支援」「入院・退院支援」「急変時の対応」「看取り」の機能が求められ

る。

このことから、拠点と医介連携事業は密接に関わり合っており、一体的に検討を進める必要があることから、本審議会の委員に、「在宅医療に必要な連携を担う拠点」の担当者を加えることを提案。

○委員長

只今の提案に対し、意見はどうか。

○委員

現場を通じて感じる事として、85 歳以上の増加や人口減が進む 2040 年とその先を見据え、市民が日常生活をベースとして、適切に、必要に応じて入院・医療を受けながら生活することができ、同時に携わる専門職や従事者も持続可能なサービス提供となるよう体制構築を進めていく上で、この推進事業と拠点の連携は不可欠と感じる。

○委員長

他に意見はないか。

○委員 意見なし

○委員長

それでは、提案のとおり、「在宅医療に必要な連携を担う拠点」の担当者を本審議会の委員に認め、審議を深めていきたいと思います。

○事務局より閉会のあいさつ